

コース名		科目名			対象学年		
公衆衛生社会医学		環境社会医学			4		
開講学期		科目責任者		副責任者			
1 学期		伊藤 達男		西村 泰光			
目的							
患者に最善な医療を提供できる医師となるため、患者を取り巻く個人的・社会的環境を踏まえ、保健・医療・福祉の制度・しくみを活用した適切な解決策を導き出す力を身につける。 さらに、全人的な医療を多様な領域で実践するために、予防医学の考え方を学ぶ。							
授業到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 行政の場における医師(行政医師)の専門的実務について概要を学ぶ。 2. 地域医療の現状や問題点、地域包括ケアシステムについて理解できる 3. 生活環境の保全について、上下水道や廃棄物処理も含めて説明できる。 4. 食品の安全について、その動向、食中毒、衛生管理について説明できる。 5. 健康増進法に基づいた「健康日本21(第2次)」の方針について説明できる。 6. 労働の場における医師(産業医)の専門的実務について説明できる。 7. 環境保全に向けた取り組みを説明できる。 8. 大気、水、土、食品などの環境因子の生体への影響について説明できる。 9. 生活環境、労働環境における中毒と健康影響を説明できる。 10. 現場および社会的な問題解決への展開を志向できる。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	4/ 2	火	5	講義	伊藤達・西村泰 武井	衛生	環境社会医学ユニットの【見学・実習】、【e-Testing】、【実習報告・検討会】のオリエンテーション
2~7	4/10	水	1~6	実習	伊藤達・西村泰 武井・清水由 山崎晃	衛生	環境社会医学実習 1 回目
8	4/17	水	2	講義	伊藤達	衛生	社会・環境と健康：健康の維持・増進や疾病予防の考え方とその取り組みについて(岡山県環境保健センター 所長 望月 靖 先生)
9	4/17	水	3	講義	武井	衛生	衣食住の衛生：生活環境での安全管理のための制度の仕組み
10~15	4/24	水	1~6	実習	伊藤達・西村泰 武井・清水由 山崎晃	衛生	環境社会医学実習 2 回目
16~21	5/ 8	水	1~6	実習	伊藤達・西村泰 武井・清水由 山崎晃	衛生	環境社会医学実習 3 回目
22	5/17	金	5	講義	伊藤達	衛生	行政の場における医師の専門的実務について(厚生労働省老健局 老人保健課長 古元 重和 先生)
23~28	5/22	水	1~6	実習	伊藤達・西村泰 武井・清水由 山崎晃	衛生	環境社会医学実習 4 回目
29~34	6/ 5	水	1~6	実習	伊藤達・西村泰 武井・清水由 山崎晃	衛生	環境社会医学実習 5 回目【実習報告・検討会】
35	6/13	木	4	講義	伊藤達	衛生	産業保健：産業医の仕事と役割
36	6/25	火	2	講義	伊藤達	衛生	化学物質および物理的要因による健康被害：最近の事例と事業場における安全衛生管理体制の確立
評価方法							
<p>[期末試験]50%(多肢選択試験を実施します。講義内容および、実習報告・検討会の内容から出題する。)</p> <p>[実習点]16%(環境社会医学実習を4回実施する。「個別課題レポート」、班ごとの「実習まとめ資料」、実習時の態度、相応しい髪型、服装であるか等を総合的に判断する。)</p> <p>[プレゼンテーション]34%(実習班ごとで担当した実習課題を「実習報告・検討会」にて、社会医学、予防医学、医療行政の観点での課題と解決法について議論する。)</p> <p>[評価方法]多肢選択試験、出席・受講態度評価、論文・レポート、プレゼンテーション評価、実習態度評価、その他</p> <p>[備考]環境社会医学実習に正当な理由なく欠席した場合は、科目評価自体を欠点とする。</p>							

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて

1. レポートは、教員の指示に従って作成すること。レポートに生成 AI を使用する場合は、「川崎医科大学の生成 AI 取扱い指針」に従い、使用した生成 AI の種類、引用箇所、prompt 内容を提示すること。
 2. 生成 AI の内容には虚偽が含まれている可能性があるため、必ず自ら根拠や裏付けを確認すること。
 3. 課したレポートは、原則、コメントをつけて返却する。
- 種々の課題・問題については、e-Learning システム、Sindbad システムを使っての周知とする。
「個別課題レポート」及び、班ごとの「実習まとめ資料」を提出した上で実習受け入れ機関からの感想などを適宜伝える。

教科書

ISBN-、公衆衛生がみえる 2024-2025, 医療情報科学研究所編集, Medic Media, 2024
ISBN-、国民衛生の動向 2023/2024 (第 70 巻第 9 号), 厚生労働統計協会, 2023, 一般財団法人 厚生労働統計協会, 2023
適宜、資料を実習開始時、講義前にて配布する。

参考書

ISBN-978-4-524-20375-8, シンプル衛生公衆衛生学 2023, 小山洋, 南江堂, 2023
健康日本 21 (第二次): https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html
健康日本 21 (第三次) の推進のための説明資料:
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21_00006.html
厚生労働省ホームページ政策について: <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/index.html>
How to 産業保健 11 よくわかる じん肺健康診断, 労災病院じん肺研究グループ 編集委員会編, 2018

準備学習（予習・復習等）

- ・教科書、参考資料と配布資料のみならず、最新の国際情勢や社会問題などの時事を踏まえながら、医療者として社会に貢献するために自分が良く理解できていない部分について重点的に学習してください。（教科書、配布資料での予習 3 時間、復習 6 時間）
- ・社会情勢に従って法規、制度等は頻りにアップデートされます。継続学習を習慣づけてください。（予習／復習：各省庁 HP などを参考に 1 時間）
- ・実習では班員同士で協力して、課題と対策について理解した上で、十分な知識をもって他者に説明できるようになってください。（グループでの推定学習時間：6 時間、資料作成時間：9 時間）
- ・「実習まとめ資料」作成にあたっては、実習担当の教員と連絡を密にとり、正確で新しい情報の記載を心がけてください。（グループと教員との推定学習時間：3 時間）
- ・期末試験は教科書、講義資料、実習報告・検討会の内容より出題します。

講義についての注意事項

【期末試験】50% 多肢選択試験を実施します。
【実習】16% (4%×4回) 集合時刻、態度、服装なども含めて総合的に評価します。保健医療・公衆衛生に関連した学内外施設にて現場での実務を学びます。医学教育に多大なご理解を頂いた専門施設にてご好意で受け入れてくださっていることを十分に弁えて、国民の健康の維持・増進や疾病予防の考え方とその取り組みについて資料と教科書をしっかりと予習をした上で臨んでください。見学実習に正当な理由なく欠席した場合は、科目評価自体を欠点とします。実習後 1 週間以内に、「個別課題レポート」および、各班ごとに「実習まとめ資料」を e-Learning システムにご提出ください。
【実習報告・検討会】34% 令和 6 年 6 月 5 日の環境社会医学実習 5 回目に、実習で学んだ内容を報告、検討します。実習班ごとに 1 つの実習課題についてパワーポイントを用いて講義形式で報告を実施します。各発表班は検討会で審議した内容を踏まえて実習発表スライドの説明書 (Word 形式) を「実習報告書」として提出します。
実習報告・検討会での審査形式：各班の発表を教員の評価票に基づいて審査します。審査する内容は、①実習発表スライド、実習報告書 (15 点)、②発表内容 (分かりやすさ、実習趣旨の理解、チームとしての役割分担が行えたか) (15 点)、③発表を通して、実習受け入れ機関への感謝が感じられるか (4 点) の 3 項目です。教員による評価点を決定する際に、全班からの班ごとでの評価点も参考にします。
【ID・PW】「個別課題レポート」および、各班ごとに「実習まとめ資料」の提出には「e-Learning」システムの ID と PW が必要で、PW については、学生個人々々で把握していかなければならないことを十分理解しておくこと。

昨年度からの変更点・改善項目

環境社会医学ユニットでは、【公衆衛生・予防医学・社会医学】領域の中の実習、及び「保健活動」、「環境保健」、「産業保健」、「食品保健・栄養」の講義を受け持ちます。
主に、厚生労働省関係の制度変更に従い、参考資料が更新されますので随時ご確認ください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

公衆衛生は、国民健康の維持・向上を目指す社会の組織的な取り組みに関する学術及び実践分野です。公衆衛生では集団に対して責任をもつこと、病人だけでなく、予防の観点から健康な人も対象としている点を学んでいただきます。本科目では、予防医学に基づく健康管理を考えることができる医師を養成し、予防医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目指します。

基礎・社会医学から臨床医学、法令等、にわたる幅広い最新知見を含む講義および実習を設定し、これを履修することによって、医学における基礎理論および実践方法論を身に付けることを目指します。

また、この科目は、主として以下のコンピテンズ・コンピテンシーの達成に向けて設定されています。

I. プロフェッショナリズム：1-個人の尊厳を尊重し、相手の感情や社会背景に共感を示すことができる、5-多職種及び同職種連携の重要性を理解し、実践できる。

II. コミュニケーション能力：3-礼儀・礼節と協調性を持って、他人と接することができる。

V. グローバル化する社会及び国際社会への貢献：1-保健・医療・福祉の現状を理解し、その改善のための活動に参加できる、2-疾病予防と健康増進に取り組むことができる、3-地域医療の現状を把握し、プライマリ・ケアを実践できる、4-災害医療の特殊性について理解し、災害発生時に適切に行動できる。7-日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を説明できる。

ナンバリング

SPES419

